

決算特別委員会分科会報告(Q&A)

上程された決算認定議案は決算特別委員会に付託された後、分科会に委嘱されます。各分科会では、決算認定議案について当局より説明を受けるなど慎重に審査されています。



建設分科会

- Q** 下水道事業の進捗状況と不納欠損について。
- A** 財源等の関係で全体計画から若干遅れている。使用できる日を待っている市民に対し情報提供が不十分な面もあったので、周知に努める。不納欠損については、昭和63年から平成16年までの274件を今回まとめて不納欠損とした。
- Q** 委員の意見 平成25年度が計画の見直し時期となっているが、経営の観点から思い切った見直しも必要であるとの意見が出された。
- Q** 雄物川地区の水道未普及地域への対応について。
- A** 取水量に余力のある簡易水道を統合し、この水源を活用して未普及地域への給水を行う。計画の前倒しも検討する。
- Q** 委員の意見 平成26年度に水道料金が全市統一されるが、不公平とならないよう整備を進めるべきであるとの意見が出された。
- Q** 下水道接続の確約について。
- A** 合併浄化槽設置への補助金申請の時、確約書を提出いただいている。下水道が通ったときには切り替えをお願いしている。



厚生分科会

- Q** 高齢者の寄り合い場づくり事業について。
- A** 看護福祉大学に、高齢者の生活実態の調査をしてもらい、それをふまえた結果として、新たな小規模駅を開設した。
- Q** 事業仕分けで不要とされた増田診療所について。
- A** 21年度は705人の利用者がおり、すぐに廃止というわけにはいかない。地域における役割は大きい。患者、病院の先生、地域住民の意見を聞き、今後のあり方を検討する。
- Q** 特別養護老人施設にはなかなか入れてもらえない相談があるが、介護計画の中で、将来的に待機解消につながるよう改善はできないか。
- A** 第4期介護計画の中では21〜23年度にかけて、1施設ずつ建設はできる。次期計画に向けては、利用者・待機者の状況、利用者の見込み、保険料とのバランスを考え、十分な検討をして計画策定をしていきたい。
- Q** 介護相談員派遣事業とは。
- A** 施設利用者の声を事業者側に伝えるという橋渡しの役割をしながら、介護サービスの質の向上に貢献する事業である。国の介護相談員の研修を受けた相談員がいる。



総務文教分科会

- Q** 生活バス路線運行費補助事業と代替運行事業の状況について。
- A** 生活バス路線の見直しについては、今年3月に法定協を立ち上げて9月からアンケートを実施するところだ。その結果を受けて、地域の要望、ニーズ等を把握して生活バス路線や代替運行の見直しを図りたい。3年後の県補助金については、広域路線でないとなかなか対象にならないという方向であり、8市町村合併で大きくなった横手市は対象になりにくい環境になっている。それで新しい交通体系として、コミュニティバスやデマンド交通等について検討しているところである。
- Q** 消防ホースの更新について。
- A** 年次計画で各消防団に一定の消防ホースを更新し、21年度にも一定の配備はしている。しかし、定期的な管理をしていない消防団もあって、使う段階で補修が必要だったという場合もあるようなので、もう一度確認しながら有事に支障のないように計画的に配備を進めていきたい。



産業経済分科会

- Q** 食と農からのまちづくり事業について、具体的な展開や成果は。
- A** チームブラスYという地産地消運動を新たに展開し、ホームページ、地域農家のまちづくりのテレビ番組、パンフレット等で市内外に向けPRしている。食と農を紹介するブログのアクセス件数は、昨年度は6千929件、今年度は1万8千473件でかなりの実績である。海外展開は、香港フェアなどで大沢ぶどうジュースや増田のりんご、りんごジュース等を販売し、19年度の売り上げは281万円。21年度449万3千円と伸びている。首都圏の販売拡大については食品企業やスーパー、卸売市場に販売活動を行っている。
- Q** 観光協会補助金について。
- A** 合併前からの観光協会の有無で、アンバランスがある。対外的に市の観光として列記できるもの、8つの地域づくりに関連するもの、集落、町内会で旧来の慣例として行われていたもの、また、農業関係の恒例的なもの、教育関係の生涯学習のものにも仕分けできる。今、観光振興計画を作ろうとしているので、地域局や教育委員会と協議しながら仕分けしたい。